

仁和寺から石清水八幡宮に ただ一人徒歩より詣でて 山までは見ずに帰って来た

京都

高校の古文の授業で習った人も多であろう、随筆『徒然草』の「仁和寺にある法師」。せっかくその舞台となった京都にいるのだからと、編集部員が法師の足どりを完全(?)再現してみました! 極限まで体を張った旅の一部始終を漫画で御覧あれ。(すーだ)
▼兼好法師『徒然草』第52段

- ### ルール
- 一、全て徒歩
 - 一、写真撮影以外スマホ使用禁止
 - 一、見ていいのは古地図(大学図書館で入手)のみ
 - 一、迷ったら人に聞く
 - 一、石清水八幡宮に着いたら麓の高良神社だけ参拝する
※復路はルールなし!

仁和寺にある法師、年寄る仁和寺に在る僧が、年寄るまで石清水八幡宮を参拝しなかつたので、心うく覚えて、あるとき思ひ残念に思われて、あるとき思ひたれて、ただ一人、徒歩より詣でけり。

極楽寺・高良などを拝みて、極楽寺・高良神社などを拝んで、かばかりと心得て帰りにけり。これだけだと思ひ込み帰つてしまつた。さて、かたへへの入にあひて、そして、仲間の僧に云つて、「年ごろ思ひつること、果た「長年思つていたことを、成し遂げまはしはべりぬ。聞きしにも過ぎず、尊くこそおはしけれ。そ尊くいらつちやつたをこれにして、も、参りたる人ごに山へ登りしは、何事かありけん、ゆ何があつたのさうと、かしくりしかど、神へ参るこ氣になつたけれど、神へ参するのがそ本意なれと思ひて、山まで本来の目的だと思つて、山までは見なはせず。」とぞ言ひける。

少したことにも、先達はあちよつとしたことにも、指導者はあつてほしいものである。

らいふすてーじ編集部
すーだです

チャームポイントは根性です

このたびの無謀な冒険のお供になつてもらうのは2枚の古地図

羅城門以北はこっち!
平安時代～戦国時代の京を描く。羅城門以北のみ。

以南はこっち!
江戸時代の京を描く。右京がだいぶ省略されている。羅城門以南も一応含む。

《故実叢書》中古京師内外地図 (1901) 京大絵図：新撰増補 (1686)

ポカポカ陽気の午前9時
仁和寺を出発

まずは両方の地図にある東寺を目指します

さっそく妙心寺を発見

さて地図に載っているかな?

(地図を広げるのも一苦労)

地図を広げたい

直射日光なし

風なし

わからんのかい

※古地図に詳しい方は歯がゆいと思いますがご容赦ください

境内の案内所で聞いてみました

長年やってるけど地図のどこが妙心寺かって聞かれたのは初めてだなあ

ですよ

東寺まで歩いたら死にますか?

えーと等持院がここだからこの向きでこの辺が妙心寺ですね

「どこまで?」と聞かれ

石清水って言ったら頭おかしいって思われるかな

「東寺です」と答えるも

東寺まで歩いたら死にますか?

本当は石清水だとはとても言えなかつた

その後も人に道を聞きまくり千本通にたどり着いたらひたすら南下

この1日で7人に道を聞きましたが全員とも優しかった。

千本通は鎌倉時代の朱雀通にあたり右京と左京を隔てていました

梅小路公園で昼食

メニューは鎌倉時代らしくお米ふにぎり

12:40 東寺に到着

ここで何が不安ってこの先の地図がこんなん

大宮通を降り

右折して川沿いをしばし歩くと

大宮大橋や

とばおほはしを経て

カルガモに道を塞がれながら

14時 ついに地図に載っている小枝橋に到達!

渡ってひたすら南下 20分ほど人がおらず心細かったです

やっとな見つけた人に「小橋」を聞くも小橋? 知らないな

実際に1時間後「宇治川大橋」が現れるが

近くには渡城、あちから目指すは淀大橋、では?

宇治川の大橋は廃止された後日知る

とこのことで目標を大橋に変更

とありえず死にませんでしたがすでに脚はくたくた

せっかくなので羅城門跡にも寄り道

宇治川沿いを延々と歩く

ずっと同じ景色で心が折れそう……

ありました淀大橋

これを渡ればきっともうすぐさ!

すみません石清水八幡宮はどちらに……

この川沿いを行って橋を渡って

橋はまだかな

あれれまた橋?

わー八幡市へようこそだ、やっとな八幡市がそーか

17時 到着

一の鳥居

高良神社を参拝

※疲労していたようです

極楽寺(鳥羽・伏見の戦いで焼失)跡地

とにかく歩き切ったことで頭がいっぱいでなんかもう本殿はどうでもよかった記憶があります

※写真のブレが疲労を表しております

※本当にちゃんと撮影したつもりだったんです

検証結果

仁和寺～石清水八幡宮を徒歩で往復は(往路だけでも)とてもつらい道のりを踏破しただけで達成感があるので、肝心のところで気が抜けてしまう可能性はある

高良神社だけでは石清水八幡宮の魅力の1割しか楽しめていない(後日本殿も見た感想)

復路は電車とバスであつという間

8時間 26km 4万歩

18時半の仁和寺

何事もスマホに頼れる時代、紙の地図を手にもつたり、人に道を尋ねたりすることはあまりありません。しかし文明の利器をあえて手放すことで、今まで見過ごしてきた風景や人の温かさに気がつきました。(京阪で爆睡した復路は、文明の利器の偉大さにも気がつきました。) みなさんも時には、**短距離**をアナログな方法で旅してみてもいいのでは?

オマケ：つらかった場面TOP2

- 1 道が合ってるのかもわからないまま、宇治川沿いをひたすら歩く苦行
- 2 石清水からそのまま家に帰りたいのに仁和寺行きのバスを待っていた間